

(別記様式)

令和6年度 府立丹波支援学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (計画段階 ・ 実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
1 学校経営計画に基づく計画的・組織的・効率的経営の推進 2 地域・保護者の期待に応え、信頼を高める学校づくり 3 学校の安心・安全の推進 4 次の移行先に向けた系統的な教育課程の編成と、個別の指導計画に基づく授業の充実 5 希望進路の実現に向けての職業教育・進路指導の充実 6 特別支援教育の充実を目指し、教職員の専門性向上と他の教育機関、福祉・医療・労働機関等との連携の推進	【組織・運営】 ・業務改善委員会を中心に業務の見直しを図る。 ・児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業づくりを進める。 ・年間の見通しがもてる年間単元計画の作成に取り組む。 ・見やすいHPづくりができたが、緊急時の対応について内容を充実させる必要がある。 ・学校運営協議会と連携をして地域とともにある学校の在り方を探る。 【教育課程・学習指導】 ・教育課程検討会議で、カリキュラムの検討を進め、授業づくりのしやすい環境を整える。 ・防災防犯教育・安全教育の充実を図る。 【地域連携】 ・地域の特別支援教育の視点及び実践力の向上に向けて取り組む。 ・SSWとの連携の具体化を図る。	(1) 挨拶を大切にする学校、挨拶や言葉を交わし支え合う教職員集団 (2) 業務の改善及び誰にとっても分かりやすく見通しのもちやすい環境づくり (3) 児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成と健康の向上 (4) 人権意識の向上にむけて人権教育の計画的研修及び教職員の指導力の向上 (5) 防災教育や減災対策を行い災害に強い学校づくり

	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校経営	業務内容やシステムの見直しによる業務改善を推進し、勤務時間の適正化(事)	コミュニケーションを大切にしなが業務分担の見直しやICT機器の活用を推進すること業務改善を図る。		
		コミュニケーションを大切にしなが、授業づくりをしやすい環境づくりや災害につよい学校づくり(運)	業務改善委員会、教育課程検討会議で分かりやすく働きやすい学校をめざす。		
		学校運営協議会を生かし、学校と地域が連携して子ども達の豊かな成長を支援(運)	熟議を進めながら地域開かれた学校として地域の在り方や連携を考える。		
専門性の向上	情報発信	他学部と交流・協議をすることで研究仮説に迫るとともに研究紀要のあり方や活用について整理(研)	児童生徒の思考・判断・表現の場面に着目した授業づくりと、学部を越えた研究協議をすすめることで実践の系統性を考える。		
		児童生徒を多面的に捉えよりよい指導支援の方法を検討し提案。自立活動の理解が深まるよう学習する機会を設定(自)	流れ図等のツールを活用しながら児童生徒の状況の把握と自立活動における6区分27項目の視点で目標を検討し横断的に連携をしながら指導をする。		
学習指導	情報発信	HPのタイムリーな記事の更新と閲覧者が興味を持つ見やすいHP作り(公)	記事の年間計画をたてる以外にも積極的な記事の作成を行う。すぐに目当てのページが見つかるようにする。		
		社会に開かれた教育課程の実現(教・学)	学習指導要領の各教科の目標や内容を年間指導計画で明確にし教育課程の改善に繋げる評価を行う。		
		教育活動と学校業務におけるICT利用や活用の推進(教)	ICT機器を用いた授業実践を集約する。会議のペーパー化やリモート会議でICTの有効活用を図る。		

教育課程・学習指導	生徒指導	安心安全な学校生活や通学のための安全教育、命を大切にす意識の向上(生)	自主通学生への交通安全教育の実施、教員による通学指導、問題事象に対する迅速な対応と指導を行う。		
		予防的指導を含め学部、寄宿舎、家庭と連携をして組織的で迅速な対応。再発防止のための環境整備(生)	一貫した指導のための「学校生活の心得」を作成する。迅速で組織的な対応を目指し教職員向けフローチャートを作成し活用する。問題事象を共通理解できるシステムを構築する。		
	健康安全	感染症予防や衛生についての意識の向上	保健室と連携し感染症予防についての取り組み方を分かりやすく発信する。清掃や整理整頓についてこまめに発信する。		
		日常的に起こりうる事故に対して教職員全員が対応できる能力の育成	児童生徒の事故に伴う対応マニュアルの周知を図るとともに緊急訓練を実施する。		
	進路指導	全校生徒の実態把握を行い早期に課題と向き合い見通しを持った進路指導と卒業生のアフターケア	就学支援部と連携をして児童生徒の実態把握をし、関係機関と将来的な進路課題を共有する。		
	各部	授業改善、授業力の向上、系統的な教育課程の編成及び検証(小)	地域とのつながりを意識し、地域で豊かに生きていく児童を育成する教育実践を進める。「日常生活の指導の指針」に沿った指導を進める。		
		中学部期の特徴を踏まえた教育課程の構築(中)	授業研、ケース研を通して、中学部期において「自ら考え行動する力」「相手とのコミュニケーションを通じて人間関係を結ぶ力」「豊かに生きる力」を身に付けるために必要な指導のあり方を検討する。		
		高等部教育を「青年期教育」と位置付け、豊かな社会生活を営むための教育課程の整理・構築(高)	全校の研究テーマとも関連させながら実践研究を行い、卒業生の姿からも学びながら青年期教育を深めていく。		
		個々に応じた入舎のあり方についての検討(舎)	寄宿舎の入舎システムについて全校的な周知を図る。		
	地域連携	地域支援	教育相談活動の一層の充実(地)	様々なニーズに対応した支援活動ができるように力量を高める。	
地域の支援力の向上(地)			各校のニーズに応じた具体的な支援方法や事例研による障害特性を学ぶことができる研修会を実施する。		
修学支援		修学や生活の課題に対する改善や解決(修)	学校や家庭での児童生徒の状況を把握し、生徒指導部や進路指導部、学部関係機関と連携したり、必要に応じてスクールカウンセラー等につないだりする。		

学校関係者
評価委員会
による評価

次年度に
向けた改善の
方向性

()の略語 (運)運営会議 (事)事務部 (研)研究部 (広)広報部 (教)教務部 (学)学部 (生)生徒指導部 (保)保健給食部 (進)進路指導部 (小)小学部
(中)中学部 (高)高等部 (自)自立活動部 (舎)寄宿舎部 (地)地域支援センター (修)修学支援部